

2020年5月27日

2020年度 鉄道・バス設備投資計画 安全対策とサービスの向上に総額187億円

ホームドアを3駅に設置、相鉄・東急直通線用車両6編成を導入

相鉄グループ

相鉄グループでは、2020年度に運輸業において、総額187億円（鉄道事業178億円・バス事業8億円）の設備投資を実施します。

鉄道事業〔相模鉄道(株)：本社・横浜市西区、社長・千原広司〕では、駅ホームにおける安全と安定輸送を確保するため、全駅へのホームドア設置（2022年度末完了予定）に向けた整備工事を進めており、今年度は二俣川・大和・湘南台の3駅に設置します。また、2022年度下期に開業予定の相鉄・東急直通線向けに開発した新型車両「20000系」を、すでに導入している1編成に加え、さらに6編成導入し、開業に向けた準備を着実に進めます。

その他、車両機器や各種保安設備の更新によりさらなる安全性の向上を図る他、お客さまへのサービス向上を図るため「デザインブランドアッププロジェクト※1」の統一コンセプトに基づき、既存車両や駅舎のリニューアル、待合室の新設などを引き続き実施します。

バス事業〔相鉄バス(株)：本社・横浜市西区、社長・菅谷雅夫〕では、大型乗合バス17両（うちハイブリッドバス※2 10両）を導入する他、より安全性が高いASV※3型の高速バス2台を導入します。

詳細は、別紙のとおりです。



昨年11月開業の
羽沢横浜国大駅に設置したホームドア



相鉄・東急直通線の開業に向けて
導入を本格化する新型車両「20000系」

(記号：◎今年度竣工予定・○継続)

【鉄道事業】 178億円**1. 安全・安定輸送の確保**

○ホームドアの設置

駅ホームにおける安全性向上のため、2022年度末までに相鉄線全駅にホームドアを設置します。今年度は二俣川、大和、湘南台の3駅に設置するとともに、ホームの補強や列車定位置停止装置（TASC）※4などの準備工事を実施します。

なお、ホームドアの設置にあたっては、国および地方自治体の協力のもとに進めてまいります。



相鉄線 横浜駅のホームドア

○相模鉄道本線（星川駅～天王町駅）連続立体交差事業

踏切事故と交通渋滞の解消や地域の一体化を図るため、2018年11月に星川駅と天王町駅を含めた上下線約1.8km（工事区間）を高架化しました。今年度は、星川駅・天王町駅の駅舎改良や車両留置線の整備を進めます。

※本事業は横浜市の都市計画事業です。



天王町駅改良工事の様子

○線路の改良

今年度は西横浜駅、相模大塚駅の分岐器の交換を実施します。

また、本線の軌道の改良（主に道床の交換）を実施し、列車の騒音、振動を低減するとともに、安全性強化を図ります。



分岐器改良工事の様子

○構造物の改修

万騎が原トンネル（横浜市旭区）内部の改修（2016年度着手）を引き続き実施し、コンクリートの剥落を防止します。また、いずみ野線の高架橋の高欄（防護壁）の落下防止対策（2017年度着手）も引き続き実施し、鉄道構造物の安全性強化を図ります。



万騎が原トンネル内部の様子

2. サービスの向上

○新型車両「20000系」の導入

2022年度下期に開業を予定している相鉄・東急直通線向けに開発した新型車両「20000系」を順次導入します。

今年度は、6編成・60両を導入する予定です。

※2023年度までに全16編成を導入する予定です。



20000系車両（室内）

○車両リニューアル

「デザインブランドアッププロジェクト」の取り組みとして、車両のリニューアルを進めています。車体色を「ヨコハマネイビーブルー」に変更する他、座席の座面やつり革の変更など内装の改良や車内案内放送の自動化を行います。今年度は、10000系1編成のリニューアルを予定しています。また、9000系の空調システムを改良し、快適性向上を図ります。



8000系リニューアル車両

○駅舎のリニューアル [南万騎が原駅]

「デザインブランドアッププロジェクト」の取り組みとして、内外装の改修など駅舎のリニューアルを進めています。

今年度も引き続き、南万騎が原駅において、シースルー改札^{※5}の設置やブランドアップ工事などを予定しています。



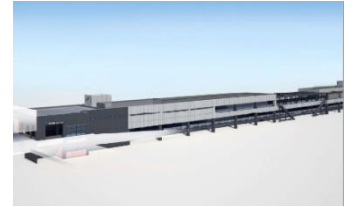
リニューアルした二俣川駅

○海老名駅総合改善事業

鉄道駅総合改善事業（形成計画事業）として、北口および南口2階への改札口の増設、ホームドアの新設、生活支援施設の整備と合わせて、駅舎の建て替えを行います。今年度は、新駅舎の鉄骨工事、仮改札への切り替え、既存駅舎の解体などを予定しています。

※新駅舎の開業予定は、2022年度です。

※イメージ図は、現時点での完成イメージであり、変更となる可能性があります。



相鉄線 海老名駅完成イメージ

○待合室の新設 [西谷駅、希望ヶ丘駅]

電車を快適にお待ちいただくため、各駅に待合室の整備を進めています。

今年度も引き続き、西谷駅、希望ヶ丘駅への設置工事を予定しています。



待合室（西横浜駅）

(記号：◎今年度導入予定)

[バス事業] 8億円

◎乗合バスの導入（大型17両）

ドライバー異常時対応システム（EDSS）^{※6}付きバス16両（うちハイブリッドバス9両を含む）を導入します。

◎高速バスの導入（2両）

安全性の高いASV型の高速バスを2両導入します。



導入予定のハイブリッドバス

※1 「デザインブランドアッププロジェクト」とは・・・

相鉄グループは、2017年12月に創立100周年を迎え、2019年11月にJR線との直通運転を開始。2022年度下期には東急線との直通運転を予定していることから、お客さまとの最大の接点となる鉄道の駅舎や車両、駅に隣接する商業施設などを統一したデザインコンセプトに基づきリニューアルを進め、認知度や好感度を高めることで「選ばれる沿線」を実現するための取り組み。

※2 ハイブリッドバスとは・・・

環境への一層の配慮および燃料費などのトータルコストを低減できるバス。

※3 ASV型とは・・・

Advanced Safety Vehicle（先進安全自動車）の略。

衝突被害軽減ブレーキ、車間距離保持機能付オートクルーズなどの先進技術を利用してドライバーの安全運転を支援するシステムを搭載した自動車。

※4 列車定位置停止装置（TASC）とは・・・

ホームドアと車両のドア位置が合うように列車を停止させるため、運転士のブレーキ操作を支援する装置。

※5 シースルー改札とは・・・

周囲をガラス張りにし、室内にオープンカウンターを設けたお客さま対応有人改札。

※6 ドライバー異常時対応システム（EDSS）とは・・・

EDSS（エマージェンシー・ドライビング・ストップ・システム）の略。

運転士に異常が発生した場合、運転席と客席最前部に設置された非常ボタンにより車両を緊急停止させる安全装置。装置が作動すると徐々に車が減速し、警告灯ハザード、クラクションにて乗客および周囲に緊急停止を報知します。また、バスロケーションシステムを利用して、異常発生を営業所へ知らせます。